

2026

7.15 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆発表者紹介

12:15-12:40

◆プレゼン

12:40-12:50

◆質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_7apftpq6TxGBKPoIKKXy1Q](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_7apftpq6TxGBKPoIKKXy1Q)

【技術支援】九州大学 Q-AOS

# 民主主義の後退とアフリカ政治： 変質する民主主義制度の実態



## Key Words

### 民主主義の後退

強権化

アフリカ政治

法の支配

法による支配

## 味志 優 助教

九州大学アジア・オセアニア研究教育機構

九州大学アジア・オセアニア研究教育機構助教。専門はアフリカ地域研究、比較政治学、文化人類学。東京大学教養学部卒業、同大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。日本学術振興会特別研究員（DC2）などを経て 2025 年より現職。東アフリカのタンザニアでの現地調査をもとに、汚職やクライエントリズム、有権者の意識からアフリカにおける民主主義や国家の動態を研究している。主要論文に「アフリカの『癌』としての汚職理解を超えて」（『アフリカ研究』）等がある。

近年、世界各地で「民主主義の後退」現象が観察されています。ここで見られる特徴は、政治体制が独裁体制へと劇的に移行することではなく、むしろ選挙や法といった民主主義の制度的枠組み自体は維持されながらも、それが政権側によって自らに有利な形で運用されている点にあると言われています。本報告では、この潮流を考える一例として、アフリカ政治の動向を取り上げます。かつてアフリカ諸国では、民主主義の制度が機能していないことが問題視されてきました。しかし現代においては、本来は権力を制限し市民を守るはずの法律や選挙が、皮肉にも現職の政権を合法的に守り、対立勢力を排除するための道具として利用される形で「機能」し始めているという課題が見られます。こうしたアフリカの事例から、現代の民主主義が直面している課題を紐解きます。